

創立63年の歴史に刻み込む

「ときめきにあふれ
やすらぎのにじむ
綾南中学校」の集大成



綾南中学校 学校便り No.22

2021年 12月8日

「大切なもの」…それはかけがえのない命 ～ 人権旬間の取組 「命の大切さを学ぶ教室」より ～

昭和23年（1948年）12月10日、国際連合第3回総会において、全ての人民と全ての国とが達成すべき共通の基準として「世界人権宣言」が採択されました。世界人権宣言は基本的人権尊重の原則を定めたものであり、初めて人権保障の目標ないし基準を国際的にうたった画期的なものです。採択日である12月10日は、「世界人権デー（Human Rights Day）」と定められています。

本校でも、「世界人権デー」を含む期間に毎年人権旬間を設定し、人権尊重を啓発するための様々な取組を行っています。その一環として12月6日(月)には、広島から三浦由美子さんにご来校いただき、『大切なもの～伊織の死を通じて』と題した講演会を行いました。

三浦さんは、平成23年5月2日に高校2年生の長男、伊織さん(当時16歳)を飲酒運転の車両にはねられる事故で亡くされています。体育館では事故当時の前輪が曲がり、本体が折れた自転車の展示や、壊れたヘルメットの回覧があり、事故の壮絶さを強く印象付けられました。そして、三浦さんからは、次のようなメッセージが子どもたちに贈られました。



【前輪が曲がり折れた自転車の本体】

※ 事故当時の現物

人が暴力的に命を奪われることなく精一杯生きることができる社会を夢見ています。戦争がない、殺戮がない、犯罪がない、被害者が生まれない世界。しかし、現実には多くの生命が、犯罪や社会の不条理のもとに断ち切られています。ひとつとして忘れることのできる生命はありません。彼らの生きた証を私たちがたどれば、亡くなった生命がそのことを教えてくれるはず。一人でも多くの人に出会ってそのメッセージを受け止めていただきたいと願っています。



【講演を真剣に聞き入る子どもたち】

こうした願いを胸に抱きながら、目の前の子どもたちを、現在も未来も加害者にも被害者にもさせない、息子や私と同じ悲しみや苦しみを誰にも味わわせたくないという三浦さんの強い思いがひしひしと伝わってきました。

学習や部活動、友達との楽しいひと時も命あつての物種です。子どもたちの講演に聞き入る姿からは、自らの行動を振り返り、自分の命も人の命もかけがえのないものであるということが心に沁みていたと感じました。

人権を大切にすることは人の命を大切にすること。人権旬間では、様々な切り口から子どもたちの人権を尊重する意識を高める取組を行っています。

【綾南中学校人権旬間の取組】

11月29日(月)	人権講話(放送)
12月3日(金)	道徳1年 題材 児童労働
12月1日(水)	道徳2年 題材 ハンセン病
12月3日(金)	道徳3年 題材 高松空襲
12月6日(月)	命の大切さを学ぶ教室(講演会)
12月7日(火)	人権標語づくり
12月10日(金)	生徒会による人権劇
12月17日(金)	人権集会(1・2年) 平和集会(3年)



【事故車を間近に見ながら退場】